

報告

2月11日の越冬ワシタカ類 生息調査の結果について

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会

高松 健比古

「渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会」として呼びかけ、「日本野鳥の会栃木県支部」の会員を中心として、2月11日に行った渡良瀬遊水池の越冬ワシタカ類の調査結果の概要速報を報告します。

調査期日 1992年2月11日

調査時間 10:00-14:00

気象条件 北西の風、風力5~6(強風)、快晴

調査区域 別紙地図の通り

調査内容 調査区域に7ヶ所の定点を置き、各ポイントに2~3人の調査員を配置、視野の範囲に入る全てのワシタカ類の種名・個体数・個体の特徴(雌雄、羽色、他)・行動・観察時刻等を記入する。

調査人員 日本野鳥の会栃木県支部会員等16名

出現鳥種及び出現記録回数合計

チュウヒ	69回
トビ	24回
ノスリ	15回
ハイイロチュウヒ	2回
オオタカ	1回
ハイタカ	1回
チョウゲンボウ	1回
計 7種	113回

*注

上記の表の出現回数は、各定点での記録を全て合わせたもので、そのまま個体数になるものではない。同一個体が複数回出現している場合、及び同一個体を同時に別のポイントで記録した場合も相当数あると予想される。

従って、個体数に関しては、より詳細な記録の点検が必要であるが、調査終了時点で各調査者の意見を聞き、総合的に判断した結果としては、11日の調査による遊水池のワシタカ類の個体数は、おおむね下記のように判断された。

チュウヒ 最低13羽以上

内訳 第1調節池(ゴルフ場南) 3+ 第2調節池 6+
第3 // 2 谷中湖東 2+

(13羽というのは最小限の数で、実際は少なくとも20羽以上いたものと推定される。)

ノスリ 10羽以上と思われる

オオタカ 1羽(第1)

ハイタカ 1羽(第3)

ハイイロチュウヒ 2羽(第2)

チョウゲンボウ 1羽(第2)

トビ 特に推定せず

以上の推定個体数は、あくまでも11日の調査結果によるものであるもので、これがそのまま越冬ワシタカ類の全ての個体数になるものではない。むしろ「少なくともこれだけはいる」数、と判断されるべきである。

調査結果の考察等

今回の調査で明らかになったのは、次の点である。

(1) 調査の時間帯及び気象条件は決して良くなかった。遊水池の越冬ワシタカ類の活動時間帯は、午前8時前後と午後4時から6時頃がピークであるといわれており、今回の調査は活動が不活発である真昼であった。また、気象条件では、天候は良かったもののきわめて風が強く、野鳥、特に空中を飛行するワシ

タカ類の活動にはかなりの悪条件であった。

(2) それにもかかわらず、第2調節池を中心として、予想をはるかに超える総計113回も、ワシタカ類(ワシタカ科6種、ハヤブサ科1種)が出現した。

特にチュウヒは、以前からトビとならび遊水池で最も良くみられるワシタカ類である、と言われてきたが、今回の出現回数は特記すべき記録であろうと思われる。

その他の種においても、ノスリ(これも従来予想を超えた)や、全国的に個体数の少ないハイロチュウヒ、遊水池では従来記録は多くないハイタカ、などの出現は注目される。

(3) 地域別にみると、第2調節池における出現が圧倒的に多くなっている。これは定点の設置にも関係するが、やはり広範囲にアシ原の残る環境が、遊水池のワシタカ類にとってきわめて重要であることを示唆している、と見るべきであろう。

特に、チュウヒやハイロチュウヒは、アシ原のある広い湿地に固有のワシタカ類であり、現在栃木県内では渡良瀬遊水池以外での記録はほとんどなくなっている状況である。こうした種が、渡良瀬遊水池の特に第2調節池に集まっているという現状は、注目に値することである。

(4) 逆に、ゴルフ場や谷中湖など、かつての自然が破壊された環境では、ワシタカ類の出現はかなり少ないことを示唆している、と思われる。今回それらの周辺部に観察地点を置いたが、出現したワシタカ類は、いずれも主に残されたアシ原等で観察したものであった。

(5) 今回は出現しなかったが、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、ミサゴ等はすでに今冬の観察記録がある。例えばコチョウゲンボウは、決まった時間帯(午後遅く)には確実に観察できる(7羽観察の例もある)とのことである。今後はこれらが確認できるような調査方法の検討も必要であろう。

これらの種を含めて、遊水池における今冬のワシタカ類の観察記録提出を呼びかけ、寄せられたデータを集計・検討すれば、渡良瀬遊水池の今冬のワシタカ類の生息状況が明らかになるであろう。

(6) 今回の調査の反省点ならびに今後の調査への希望としては、次のような意見がでた。

- ・旧谷中村付近等、少なくともあと2つくらい観察ポイントがほしい。

- ・1ヶ所のポイントには、最低3人は調査員を配置すべきだ。
- ・調査時間はワシタカ類の出現最盛時間帯(午後4時以降)を中心にすべきだ。
- ・いろいろな連絡や、同一個体の確認のためにも無線機が必要だ。

高松付記

渡良瀬遊水池は、日本有数の、あるいは東日本最大の、ワシタカ類の越冬地である、と言われています。このデータだけでそう断言するのは早計であるかもしれませんが、今回の調査結果は、その片鱗を思わせるものでした。少なくとも、一つの地域でこれだけのワシタカの種類と個体数が見られる場所は、あまりないことだけは確かです。

そうであるならば、ここで越冬しているワシタカ類、というより全地球的に激減している猛禽類にとって、いま残されている遊水池のアシ原はまことに貴重な存在ということになります。

建設が計画されている第2貯水池や新たなゴルフ場計画等は、この現況を著しく損なうものであり、決して容認できるものではありません。むしろ、日本有数のすぐれた湿地環境である遊水池の自然を厳重に保護し、その中での賢明な利用方法をこそ探求すべきなのです。

私たちは、今後も渡良瀬遊水池の自然を守る運動をより強力に展開し、併せて動植物の調査を組織的に実施して行く予定です。

この動植物の調査に関しては、態勢を整えて、4月から正式にスタートさせる予定です。今回のワシタカ調査はその出発点となるものでした。

特に渡良瀬遊水池の野鳥に関しては、県内県外を問わずたくさんの方がデータを持っています。しかし、“組織的な調査”としては、今回が初めてであると思います。その点で、大きな意義があったと思います。

なお11日には、これも予想以上に多くの方が調査に参加して下さいました。呼びかけが遅れ、人数が少ないために「予備調査」と位置づけようと思ったのですが、結果は「本格的な調査」といっておかしくないものとなりました。

渡良瀬遊水池のワシタカ類のために、休日返上で駆けつけ、吹きまくる寒風の中で長時間調査にあたって下さった皆さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。2月11日は、「これから」に希望が持てる日となりました。